

第3学年東組 国語科学習指導案

「経験したことや想像したことを詩で表そう ～『心が動いたことを詩で表そう』～」

学習指導者 小出 早織

1 学級（35名）の実態

（1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

質問紙調査の結果では、「新しく分かったことや前よりもできるようになったことが何かを考えている」と答えた子供は29名であった。しかし、実際の授業で課題解決の過程を振り返りながら、最初の自分の考えと最後の自分の考えを比べることで新しく分かったことや前よりもできるようになったことが何かを見付けている子供は少ない。

（2）本単元の学習に関する学級の実態

これまでに『いろいろなおとのあめ』や『空にぐうんと手をのばせ』などの詩で、言葉やリズムを楽しみながら詩を音読し、詩の内容と自分の体験を結び付けて感想をもつといった、「読むこと」の学習を経験している。しかし、「書くこと」における学習で、自分で詩を書くことは今回が初めてである。また、2年生では、「大きさ」「触った感じ（触覚）」「匂い（嗅覚）」などの視点で植物を観察し、観察記録を書くために必要な情報を集める学習を経験している。

2 本単元で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿と習得を目指す「振り返る」方法

課題設定

単元の目標達成に向けて作成した学習計画と前時までの進捗状況を比べて、本時取り組むべき課題を設定する。

解決の見通し

本時どうすれば課題を解決できるのか、取り組み方とその順序を決める。例えば④時では、「まずは、自分で出来事に関係する言葉を集めて、友達と交流してみるといいと思うな」「前の時間に、一人で考えた後、友達と交流したら、思い付いていなかった出来事が見付かったよ」「そうそう。一人で、友達と、また一人での順で考えていくと、たくさん出来事が増やせて、その中から伝えたいことが選べたね」などと、より自分の考えを深めるために前時までの経験を想起し、解決するためにどのような取り組み方で、どのような順序で進めていくか見通しをもつ。

解決

詩に表したい出来事を集め、選んだ出来事・気持ちや様子を表す言葉・詩の表現技法について、自分の伝えたいことに合っているか確かめていく。③時では、学校や家での生活の中で楽しかったことや嬉しかったこと、驚いたことなどの観点で出来事を想起し、ワークシートに書き出していく。その際に、日頃の思い出を書き溜めた日記（エピソードメモ）や、掲示してある出来事の様子が分かる写真などを見返しながら友達と話し合い、詩で表現したい出来事の詳細を集めていく。例えば、「楽しかった思い出は春の遠足かな。雨の中だったけれど、近くのスーパーマーケットに行って、自分でお菓子を買ったのがドキドキして楽しかったな」「確かに遠足は楽しかったな。私は、遠足で行った市役所で議場に入れたのが楽しかったな。めったに入れない場所だと聞いて特別な気分になったな」「そうだね。議場で議長の椅子に座ることができたのも嬉しかったな。書き足しておこう。他にもないかメモを見てみよう」などと、これまでの経験を想起して伝えたい出来事の詳細を見付け、その中から選んでいく。

振り返り

方法：「学習前後の自分の考えを比べる」

ワークシートを基に、学習前後の自分の考えを比べて本時の学習の成果を捉える。④時では、『運動会のダンス』について友達と交流しながら五感を使って気持ちや様子を表す言葉を探すと、「3個増やすことができたな」などと言葉が増えたことや、詩を書く際には、「どの言葉がいいか悩んでいたけど、言葉を変えながらも一度詩を作ったら、一つ目の詩よりも伝えたいことにぴったり合う詩が完成したよ」などと、より納得のいく考えがもてたことを捉える。そして「〇〇さんのおかげで、新しく『観客の笑顔』が見えたのを思い出したよ」と友達と関わるよさや「〇〇さんに『△△さんのおかげで言葉を増やすことができた』と言ってもらえて友達の役に立てて嬉しかった」などと自己の貢献を感じていくだろう。

3 達成意欲を高める目標共有の工夫 ①・②時

①時では、詩（『紙飛行機』『夕日が背中をおしてくる』）を題名を隠した状態で提示し、題名を当てるクイズを行う。その際に、「なぜその題名だと思ったか」「どの言葉からそう考えたのか」「どんなことを想像したか」を問いかけ、繰り返しなどの表現技法に着目しながら、詩の情景を具体的に想像できるようにし、詩に込められた思いについて想像することの面白さを感じられるようにする。②時では、教師自作の心が動いた出来事について書かれた詩について、どんな思いが込められているかを当てるクイズを行う。そして、表現技法や題名を手掛かりに詩に込められた思いが何か、友達と話し合いながら予想する。そして、予想したことと教師の思いが通じ合っているかを確認し、伝えたいことが伝わったり、分かったりする嬉しさや楽しさを共有することで、「自分も伝えたいことを詩に表して友達に伝えたい」「友達が作った詩に込められた思いを考えたい」という意欲を高め、「心が動いたことが読み手によく伝わる詩を書いて思いぴったりクイズをしよう」という単元の目標を設定する。

4 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て（本時 4/7）

次	単元計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
一	① 詩に書かれていることを想像しよう 二つの詩を読んで繰り返しされている表現などに着目しながら、詩の情景を具体的に想像し、題名を当てるクイズを行う。その際、なぜその題名だと考えたか理由を話し合い、詩に込められた思いを想像する中で、どんな詩の表現技法（繰り返しの技、例えの技、呼び掛け）が用いられているか、技法がある場合とない場合の読んだ時の感じ方を比較しながら、表現技法の効果について捉える。	【認知段階】 これまでに、学習を振り返る時は、ノートやファイルなどを見返ししながら、「学習前後の自分の考えを比べる」という「振り返る」方法を教示している。その際に、方法を使うことで、交流する前よりも自分が成長した（考えが深まった）ところが見付けられるというよさも共有している。
	② 思いぴったりクイズをしよう 教師自作の詩を提示し、どんな思いが込められているかを当てるクイズを行う。その後、「心が動いたことが読み手によく伝わる詩を書いて思いぴったりクイズをしよう」という単元の目標を設定する。そして、全7時間単元であることを基に学習計画を立てる。	【想起段階】 「学習を振り返る時はどうすればよかったかな」と問いかけ、方法を想起できるようにする。また、教室内に方法の言葉や方法を使う際の手順とよさを掲示しておくことで、方法を想起しやすくしておく。想起がしづらい子供に対しては、方法の掲示を示しながら、「どうやって振り返っていたかな」と問いかけたり、本時のワークシートの印が付いているところを見ている友達への注目を促したりして、方法が想起できるようにする。
二	③ 心が動いた出来事を選ぼう 学校や家での生活の中で楽しかったことや嬉しかったこと、驚いたことなどの観点で、関連する出来事はなかったか、エピソードメモや写真を基に想起し、ワークシートに書き出す。その中で特に心が動いたことについて絞り、詩で表現したいことを選ぶ。	★学習をふり返るためには 学習前後の自分の考えを比べる！ ワークシートを見て じゅぎょうのさいしょに 一人で考えて書いたものと さいごのころに考えているもの を見くらべてみよう！ 言葉がふえる！ 新しい考えが見つかる！ よりなっとくがいく！ 成長したところが見つかる！
	④ 伝えたいことがよく伝わる言葉を選ぼう ③時で選んだ出来事について、どんな様子や気持ちだったかが詳しく伝わる言葉を、五感を視点にワークシートに書き出す。その中で、自分が伝えたいことにぴったり合う言葉を選ぶ。	
三	⑤⑥ 伝えたいことがよく伝わるように、詩を書こう 前時までに集めた言葉と詩の表現技法を用いながら、心が動いたことがよく伝わるように詩を書く。その際、一人で取り組むか友達と相談しながら取り組むかエリアを選択し、必要に応じて友達と関わりながら使う言葉や詩の表現技法を吟味し、詩を完成させる。	【方法の掲示】
	⑦ 思いぴったりクイズ大会をしよう 完成した詩を西組の友達と読み合い、題名や詩に込められた思いを当てるクイズをする。その後、完成した詩や詩を書くために書き溜めたワークシートなどを基に、単元を通してどんな力が身に付いたのか振り返る。	

5 本時の学習

目標	伝えたい出来事を詳しく伝えるために、友達と交流しながら五感を手掛かりにして、その時の様子や気持ちが伝わる言葉を増やし、より自分の伝えたいことが伝わる言葉を選ぶことができる。
----	--

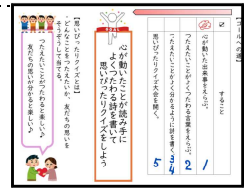
学習活動	主な子供の意識
1 前時の学習を振り返り本時の学習課題を設定する。	詩で伝えたい出来事を選ぶことができたよ。 今日は、その出来事のことがよく伝わる言葉を集めて選びたいな。 伝えたいことがよく伝わる言葉を選ぼう
2 解決の見通しをもつ。	先生はどうやって言葉を集めているのかな。 A 五感を使いながら、「何が」「どんな」「どう思った」で言葉を集めよう。 B 前の時間と同じように、一人で様子や気持ちを表す言葉を集めてから友達と交流すると、言葉がたくさん集められそうだね。
3 伝えたいことがよく伝わる言葉を選ぶ。 (1) 個人で集める (2) 友達と集める (3) 個人で選ぶ	遠足の買い物では、「たくさん」の「商品」があって「迷った」な。他にはどんなものが見えたかな。 家族旅行では、「カラフル」な「魚」がいて「わくわく」したな。他に聞かえたことはないかな。 A 遠足の買い物で「商品」「たくさん」「迷う」という言葉を見付けたよ。 B そうなんだね。買い物中に何か聞こえたことはあったの。 A そう言えば、レジの「ピッピッ」という音が聞こえたな。 B その時にどう思ったの。 A お金が足りるか「ドキドキ」したよ。言葉を増やしておこう。Bさんはどんな言葉を見付けたの。 C 水族館へ行って「魚」「色がきれい」「わくわく」という言葉を見付けた。 D 色がきれいといあるけど、どんな色の魚が見えたの。 C そうだ、「青と銀色が混ざったようなきれいな色」だったな。増やそう。 D その魚を見てどう思ったの。 C 「竜宮城みたい」だったよ。「キラキラ」して「うっとり」したな。Dさんはどんな言葉を見付けたの。 友達のおかげで、新しい言葉が増えたよ。この中から言葉を選ぼう。 レジの「ピッピッ」は使おう。 「竜宮城みたい」は入れたいな。
4 本時の学習を振り返る。	学習前後の考えを比べて、今日の学習を振り返ろう。 A Bさんのおかげで一人で考えた時よりも新しい言葉が3個増えたよ。遠足の買い物で自分で選ぶのがすごくわくわくして楽しかったことを伝えるためには、「商品」「わくわく」はやっぱり使おうと思うよ。それと、新しくレジの「ピッピッ」という音を入れたいな。 C なるほど、いいね。伝えたいことに合っているね。私も伝えたいことにぴったりの言葉を選べたよ。私は、「竜宮城みたい」という言葉が増えたんだけど、水族館の魚の色がきれいでうっとりしたことを伝えるのにぴったりだと思ったから、これは入れたいな。 伝えたいことがよく伝わる言葉を見付けられたから、次はその言葉と詩の技（詩の表現技法）を使って、詩を書いていきたいな。

評価	伝えたい出来事を詳しく伝えるために、友達と交流しながら言葉を増やし、より自分の伝えたいことが伝わる言葉を選んでいる。また、学習前後の自分の考えを比べて本時の学習の成果を捉えている。 【方法：発言、様相、ワークシート】
----	--

6 本時の詳細（ は、共調整を促す手立て）

～ 課題設定 ～ 学習活動1

授業の初め、子供たちは自発的に前時の学習やその成果を振り返っていくだろう。そして、「心が動いたことが読み手によく伝わる詩を書いて思いぴったりクイズをしよう」という単元の目標達成に向けて作成した学習計画を補助黒板に掲示しておくことで、前時までの進捗状況を捉えやすくし、目標達成に向けて、まだできていないことの中から本時取り組むべき課題が設定できるようにする。



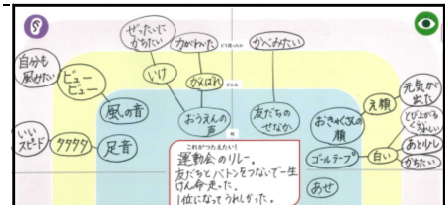
【学習計画】

～ 解決の見通し～ 学習活動2

②時で提示した教師自作の詩と教師の伝えたい思いが書かれたカードを比較することで、伝えたいことを詳しく伝えるにはどんな言葉を増やすとよいか、詩の中で使われている言葉に着目できるようにし、言葉を増やすためには、五感を使って「何が（見えた、聞こえたなど）」「どんな」「どう思った」で出来事の様子やその時の気持ちを連想していくとよいことを全体で共有する。その後、前時の板書をモニターに提示して課題解決の流れを確認することで、個人で考えた後、友達と話し合い、心が動いた出来事を増やしてから特に伝えたい出来事を選ぶと、自分が伝えたいことが明確になったという成功体験を想起できるようにし、前時までの経験を基に、本時どのように課題解決に取り組んでいくか見通しをもつ。その際、各活動の時間配分についても共有しておく。

～ 解 決 ～ 学習活動3

ワークシートを「何が」「どんな」「どう思った」の項目で色分けし、五感を視点に増やした言葉を整理しやすくする。「詩の技」についても掲示しておくことで、比喻表現を意識できるようにするとともに、気持ちなどを比喻で表している子供を取り上げ、全体へ広めるようにする。友達と交流する際には、互いに「何が」「どんな」「どう思った」についてインタビューし合う場を設けること



【ワークシートの例】

で、思い付いていなかった出来事の様子や気持ちを表す言葉を、さらに増やせるようにする。その際に、相手のワークシートを見て、書かれている言葉の中で少ない視点から質問するように手順を確認することで、新しく言葉を増やせるようにする。友達との関わりで新しく増えた言葉は色を変えてワークシートに書き足すようにすることで、他者と関わるよさを感じられるようにするとともに、振り返り場面で学習前後の自分の考えを比べやすくする。また、エピソードメモや日頃の学校での様子、昨年度の行事の様子が分かる写真を補助黒板に掲示しておき、いつでも確認してよいことを共有し、言葉を連想しやすくしておく。集めた言葉の中から、詩で使いたい言葉を選ぶ際には、自分の伝えたいことを伝えるのにぴったり合う言葉はどれか吟味し、関連する部分を線で結びながら選ぶように、教師のモデルで選び方を示した後、個人で選ぶ時間を設定する。

～ 振り返り ～ 学習活動4

振り返りカードで「学習前後の自分の考えを比べて新しく分かったことやできるようになったことが見付かったか」「友達のおかげ」「友達のために」の項目で本時の学習を振り返る。その際に、友達との交流を通して新しく増えた言葉やより納得のいく言葉には、印を入れておくことで学習前後の自分の考えを比べやすくして、本時の学習の成果を捉えられるようにする。そして、交流時に友達のおかげで学びが深まったと感じた際は、ワークシートに記名し、振り返り時に共有することで自己の貢献を感じられるようにする。個人で振り返った後、友達と自分の伝えたいことにぴったり合う言葉を選んでいるか確かめながら本時の学びについて伝え合い、方法を使って振り返ったことで、新しく言葉が増えたことやより納得のいく言葉が見付かったと感じている姿を価値付ける。また、友達と関わることで学びが深まったと感じている姿を価値付けることで、協働するよさを感じられるようにし、次も友達と一緒に課題を解決しようという思いを高める。

【学び方チェック】	
日	◎△
学習前後の自分の考えをくらべて、新しく分かったことやできるようになったことが見付かったか	◎
友だちのおかげで...○さんのおかげで、言葉がふえた	
友だちのために...△さんに、体で感じたこの言葉をいっしょにあげた	

【振り返りカードの一部】

